

令和元年度 第2回 長野市立博物館協議会 議事録

日 時 令和2年3月11日（水）午後2時00分～午後3時30分

場 所 長野市立博物館 2階 会議室

出席委員 立岩会長・宮下副会長・相澤委員・浅倉委員・伊藤委員・東福寺委員・松原委員

1 開会

2 あいさつ

3 協議事項（議長 立岩会長）

（1）令和元年度の事業進捗報告（細井係長他）

特になし

（2）令和2年度の事業計画概要（成田係長他）

（浅倉委員）「4点ほど。まず、（説明資料）1頁の常設展示改善のための学芸研究会とは、具体的にはどういったことをするのか。次にプラネタリウムの投影機撤去とあるが、投影機が無くなってよいのか。3点目が、（信州新町化石博物館の）教員向けの地層観察会は小学校の先生向けか。4点目が、（信州新町美術館の）出前講座とは何をするのか。」

（千野館長）「今のプラネタリウム投影機は修理部品がもう無い。理科教育センターも授業で使うため、使えないと問題となる。新しい投影機を買おうと1～2億円かかってしまうが、今最新のものを買っても、近年の技術進歩が速く、1～2年で変わってしまうため、プロジェクターで投影し、様子を見たい。2Kが4Kとなり、以前は非常に高かった4Kのプロジェクターを導入できるまでになった。将来的には8Kのものが出る可能性もある。言い方はよくないかもしれないが、試験的にプロジェクターのリースを導入するということ。」

（原田係長）「研究会のことだが、常設展示は現在の研究から乖離している。私は歴史（担当）だが、歴史（担当）は1人しかいないわけなので、担当は関係なく、教科書レベルから検討し、情報共有する会にしたい。」

（浅倉委員）「余談だが、他の館も変えた方がよいと思っている。」

（畠山係長）「教員向け地層観察会については、中学校、高校の先生にも来ていただきたいと思っているが、小学校に限られている。地元の中学校に来ていただけるよう話はしているが、忙しいようでなかなか来ていただけない。大学は違う形できているが、中学校、高校はなく、小学校だけとなっている。」

（宮下副会長）「新町の化石には亜炭（石炭）も含まれているか。」

- (畠山係長)「戦後、石炭が採掘されていて、八木貞助も報告している。注目するポイントかもしれない。考えていなかったが参考にしたい。」
- (前澤主査)「出前講座について。学校の先生が忙しく、我々から出ていかないと来てもらえないため、作品を持っていき、名前を隠してディスカッションなどをし、発表するワークショップをしている。答えがないので、やる側にも学びがある。信州新町小学校で今年やったので、近隣でできればと思っている。」
- (相澤委員)「細かい感想のようなものとなる。各館興味がある内容だが、戸隠は具体的なモノがあるので興味深い。子どもは、具体的なモノがあると興味がわく。ここ3～4年で、子どもが変わってきたな、という点はあるか。」
- (田辺補佐)「(来館者が)低年齢化している。(小学)5～6年生は考える力がついてくるので来てほしいが、クラブ活動などがあり忙しい。(小学)3～4年生が多い。高学年になると恐竜や化石に興味を持つ子が少ないようで、忙しくて博物館に集まらない。」
- (相澤委員)「小学3年生まではストレートに反応する。今年も箱膳を小学生にやった。博物館に来る前の事前学習としてだが、子どもたちに昔の暮らしを伝えるのに具体的なモノがあった方がよい。箱膳体験で今食べたごはん一杯はイネ3株分の話をしたら(子どもが)食い付いた。名字を聞くと田、川、山など自然や神を大切にしていることがわかる。自分に関わることなので真剣に聞く。博物館には具体的なモノがあるから伝えられる。学校の協力も必要。また、博物館には自然やふるさとにつながる具体的なモノがある。」
- (立岩会長)「昨年大災害があり、長野市は予算をそちらにつぎ込むことになった。博物館の予算はどうなったか。」
- (千野館長)「削減された。例えば、夏の展示はほとんど予算がない。これは博物館だけでなく、市全体のことである。」
- (立岩会長)「予算がなくてできるのか。そこは創意工夫で、ということか。」
- (千野館長)「むしろ、復興後予算を回復してもらえるかだと思う。」
- (相澤委員)「春のサムライの威容2、信濃の大名文化に期待している。それぞれの市町村の取り組みがあると思うが、取り上げ方のねらいが素人には伝わりにくい。企画展のアウトライン(概要)が充実するとわかりやすい。今回はどのような工夫をするのか。」
- (原田係長)「小諸の牧野家には春日局ゆかりの品があるなど、松代以外の藩では大名が移るため道具が残っている。展示でまとめられればと思っている。今回は難しいが、いつかそういったことをまとめたいと思う。」
- (相澤委員)「博物館に高齢者は多く来ているのではないか。実態はどうか。私は本を作って昭和30年代の食の暮らしを聞き取りしているが、博物館に来る人にそういったことに関心はあるか。」
- (原田係長)「文化財の保全活動は関心が高く、ボランティアが100名を超えている。社会

に関わりたいという人が多いと思う。ご夫婦連れも多い。」

(3) 台風19号(令和元年東日本台風)災害における活動報告(文化財レスキュー)(原田係長)

(浅倉委員)「文化財保存活用大綱を新潟では作っている。長野県でも県が作って今後市におりてくると思う。新潟県では、そこに文化財レスキューが重要であるということを入れている。」

(原田係長)「文化財保護法が変わり、未指定の文化財も保全の対象となった。長野県では市が先行している部分もある。今回の活動は、その参考になると思う。」

(浅倉委員)「新潟のものができたら、参考にお渡しする。口承についても新潟では記載されている。消えてしまうものなので、大切だと思う。」

(東福寺委員)「文化財レスキューは、少し触れただけでも非常に大変な仕事だと思った。10年くらいかかるのではないかと聞いた。博物館として、非常に大変な事業を抱えたと思う。これからも災害があるかもしれない。大変な仕事だと思う。」

(立岩会長)「職員の負担は大きいのか。」

(千野館長)「今は落ち着いた。去年は避難所対応などもあったので、今から考えるとよくもったな、と思う。今は、落ち着いたというのは違うかもしれないが、余裕を持てるようになってきた。」

(4) その他

ア 中条歴史民俗資料館機能の中条総合市民センターへの統合について(細井係長)
特になし

イ 信州新町の大型恐竜ニューデザインコンテスト事業完了について(成田係長)
特になし

4 閉会